

「いつもの訓練だけでは足りない」 台湾の学校関係者 石巻・大川小を視察

3/20 (水) 16:30 # 県内 # 東日本大震災 # 宮城県

2024-3-20 東日本放送



防災教育や減災に役立てようと宮城県内で研修を行っている台湾の学校関係者らが石巻市を訪れ大川小学校を視察しました。

3月18日から5日間の日程で県内の被災地などを視察しているのは、台湾で防災に積極的に取り組んでいる学校の校長など34人です。

20日は、児童・教職員あわせて84人が犠牲となった大川小学校で、当時小学6年生の次女を亡くした佐藤敏郎さんの話に耳を傾けました。

佐藤さんは、震災当時児童たちが避難した経路をたどりながら「津波から避難する人の中に自分の大切な人を想像してほしい。助かるための防災を考えてほしい」と訴えました。

参加した台湾の小学校校長「防災のリーダーを勤めていますが、話を聞いたら、いつもの訓練だけでは足りない。いざというときにどんな対応をすれば適切かをもっと考えたいです」

一行は21日は多賀城高校を訪れて、災害科学科の取り組みなどを視察するということです。



「いつもの訓練では足りない」台湾の校長が大川小視察 震災の教訓を学ぶ

校長など大川小を視察



見る YouTube

ニュース

「いつもの訓練では足りない」台湾の校長が大川小視察 震災の教訓を学ぶ〈宮城・石巻市〉

2024-3-20 仙台放送

台湾の小学校の校長などが、東日本震災の津波で児童と教職員合わせて84人が犠牲となった宮城県石巻市の大川小学校で、震災について学びました。

これは日本の文科省に相当する台湾教育部が行ったもので、小学校の校長など34人が参加しました。

校長たちは大川小で次女を亡くした佐藤敏郎さんから震災当日の様子を聞き、訓練の重要性を学びました。

大川小で次女を亡くす 佐藤敏郎さん

「失敗する避難訓練、想定外に出合う避難訓練をしましょう。避難訓練で失敗して、本番でうまくいけばいいですよ」

台湾の小学校校長

「台湾の防災のリーダーを務めている。話を聞きいつもの訓練だけでは足りない。いざというときにどんな対応をすれば良いかを考えたいです」

一行は3月22日まで県内を視察し、学んだ内容を台湾の防災に生かしたいとしています。